

市民の参加と協働を進める

コーディネーション研究集会

ど真ん中から発信！

ともに越え、ともに創り、ともに生きるコーディネーション

2026年2月

21
SAT.

22
SUN.

JVCC2026
JVCCは今回で32回目！

inあいち

会場

至学館大学

愛知県大府市横根町名高山55

参加費

一般 8,800円

JVCA
正・準会員 7,700円

締切

2026年1月31日 土

主催

認定特定非営利活動法人
日本ボランティアコーディネーター協会
市民の参加と協働を進める
コーディネーション研究集会2026実行委員会

協力

至学館大学

一般社団法人中部地域づくり協会の地域づくり活動助成を受けています

越境・対話・共創

開 催 趣 旨

「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会（JVCC）」は、「ど真ん中から発信！ともに越え、ともに創り、ともに生きるコーディネーション」をテーマに13年ぶり愛知で開催します。

人口減少、高齢化、分断・孤立、外国人との共生、異常気象、災害対応、動物被害などなど、2025年はさまざまな社会課題が顕在化・複雑化し、不安や閉塞感をこれまで以上に感じた年だったのではないのでしょうか。デジタル化が急速に進み、効率化が図られる一方で、情報の偏りや間違った情報の拡散によるトラブルも絶えません。多様なニーズや価値観に社会の仕組みが追いつかず、これら社会課題にどう向き合うかが問われた年であったともいえるでしょう。そして、こんな時代だからこそ、市民一人ひとりが地域や社会に関わり、つながり、対話することがいかに大切か。また、立場を超えた多様な市民や組織をつなぎ、新たな力を創出するコーディネーションがいかに重要かをあらためて実感しています。

今回の研究集会では、様々な立場でコーディネーションに関わる方たちが、変化する社会の中で、未来に向けて大切に守りたいこと、進化したいこと、新たに創り出したいことは何かを分野を超えて考えるとともに、事例やノウハウや悩みを共有し、学びあい、元気を持ち帰る場にできればと考えています。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。

市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会2026実行委員会
委員長 栗木 梨衣

開 催 概 要

日 時 2026年 2月21日（土） 10:30～17:00
2月22日（日） 9:30～15:30

ー参加者交流会（希望者）は21日（土）18:00～20:00にて開催します

参加費 一般 8,800円 / JVCA正・準会員 7,700円
参加者交流会費（任意） 4,400円 ※すべて消費税込み価格

会 場 至学館大学（愛知県大府市） & 一部オンライン

参加対象

- ・市民の社会参加や協働の場をつくったり、あと押ししている方
- ・地域や組織で人や団体のコーディネーションに携わる方
- ・市民の参加や協働の場をつくるコーディネーション実践に関わる方
- ・異なる分野とつながり、社会課題の解決をめざしたい方

オンラインについて

- ・全体会（オープニングセッション、クロージング）および各日2つの分科会はオンラインで参加できます。Zoomを使用いたします。
- ・パソコンでの視聴を推奨いたします。タブレット、スマートフォン等での参加も可能ですが、ブレイクアウトセッションの参加や資料の閲覧や受け取りにおいて支障が出る場合がありますのでご了承ください。マイク、カメラ、スピーカーが使用できる端末および良好なインターネット環境から、一人1デバイスでご参加ください。

交通案内

会場

至学館大学

愛知県大府市横根町名高山55

「名古屋」駅から JR東海道線で「大府」駅下車

JR大府駅からはスクールバス（無料）をご利用ください。

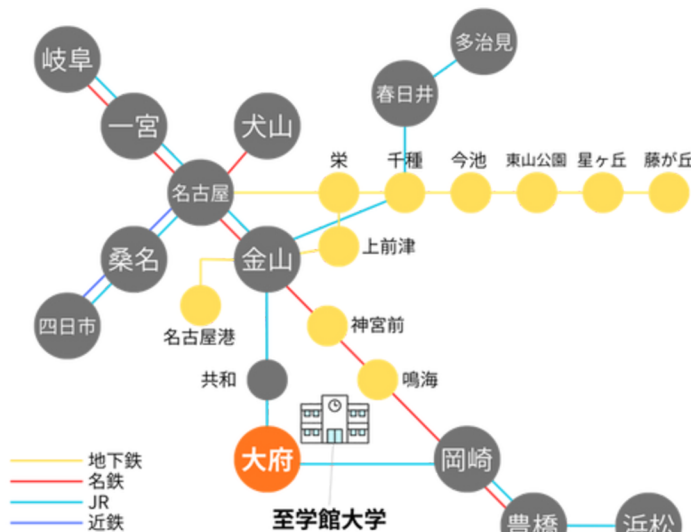
スクールバスは本集会用の臨時便です。

通常の時刻とは異なりますのでご注意ください。

詳しくは申込みをされた方への連絡メールでご案内します。

※JR大府駅から、スクールバスで10分程度です。

（天候や交通状況により変動することがあります）



申込方法

JVCC2026【専用Webページ】からお申込ください。

<https://direction4927.wixstudio.com/jvcc2026>

専用Webページ⇒

郵送またはFAXでのお申込をご希望の方は、下記事務局までご相談ください。

- 分科会A、分科会Bはそれぞれから1つを選ぶ選択制です。各分科会は先着順です。
- それぞれ第1希望 / 第2希望 / 参加しないをお選びください。

* 申込締切…2026年1月31日（土） 先着順

- ※ 締切日前に定員に達した場合は、その時点で締切とさせていただきますので、お早めに！

申込みフォーム⇒



〈参加費のお支払い〉

参加申込を受付け後、ご登録のメールアドレスにEメールにて入金手続きのご案内をお送りしますので、参加費等をお振込みください。

一般：8,800円 / JVCA正・準会員：7,700円 / 参加者交流会費（任意）4,400円

- 参加費等の入金をもって、正式なお申込といたします。
- ご入金後は原則として返金できませんのでご了承ください。
- 集会の会場でJVCAに入会（正・準会員）されると、参加費の差額をその場でキャッシュバックします！

○参加申込に関する個人情報の取り扱いについて○

- 参加申込でいただいた個人情報は、本集会の開催に必要な連絡調整（事前アンケートがある場合はその連絡を含む）、今後の本集会と日本ボランティアコーディネーター協会事業のご案内のために使用します。
- 本集会の運営のために、参加する分科会の担当実行委員や登壇者には参加者の氏名、所属、実務経験などの基本情報を共有いたします。また、参加者には名簿の配付により、全参加者の氏名、都道府県、所属団体を提供する予定です。

〈宿泊について〉 宿泊の手配は主催者および事務局では行いませんので、各自でお願いいたします。

〈当日のZoom ID 等のお知らせ〉 該当者にはご登録いただいたメールアドレスにメールにてお知らせいたします。

〈問い合わせ〉 市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会2026実行委員会事務局

E-mail : jvcc2026@jvca2001.org Tel : 03-5225-1545 FAX : 03-5225-1563

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2丁目13番地 末よしビル別館30D

1

日目

2月21日(土) 受付 10:00～

10:30～ 12:30	オープニング		『不易流行』～ボランティア・市民活動の継承と進化を展望する ～活動のカタチが多様化する時代のコーディネーターの役割とは～
分科会A 14:00 ～ 17:00	A1	ハイブリッド	地域と学生を対等につなぐボランティアコーディネーション ～お互いの気持ちに応えるコーディネーションのために～
	A2	ハイブリッド	災害ボランティアセンターの運営を組織とネットワークの力で支える ～外部からの継続的な支援の実際と備えを先進事例から学ぼう～
	A3	会場のみ	災害時こそ試される地域力！ ～多様な仲間と共に『いのち』をつなぐ～
	A4	会場のみ	外国人は、支援される側？する側？みんなでボランティア！ ～壁を取り払いともに支えあう社会を目指して～
	A5	会場のみ	団体運営の“担い手不足”問題 ～受入側の意識をアップデートする相談対応を考える～
	A6	会場のみ	地域をつなぐプラットフォームのかけ算・ひき算 ～多分野をつなぐ・広がるコーディネーションのヒント集～
	A7	会場のみ	協同組合と連携した地域のささえあいのこれから ～それぞれの組織の得意技を活かそう～
	A8	会場のみ	「コーディネーター」×「新聞報道」＝ソーシャルアクション！ ～生活保護行政の堅く高い扉を開かせた“岐阜”の現場から～
18:00～ 20:00	参加者交流会		会場：味三昧みかど（大府駅2分） 参加費：4,400円※参加は任意

2

日目

2月22日(日) 受付 9:15～（各分科会会場）

分科会B 9:30 ～ 12:30	B1	ハイブリッド	“ボランティアさん”から仲間へ ～受入団体とボランティアをつなぐコーディネーションの実践～
	B2	ハイブリッド	『共感力』を高めて『受援力』を引き出すコーディネーションとは？ ～災害支援の学びを日常に生かす～
	B3	会場のみ	未来へつなぐ、若者のチカラ ～環境ボランティアの活動からひもとく可能性～
	B4	会場のみ	「現役世代&リタイア世代を巻き込みたい！」 ～新たな活動者を巻き込む実践事例・アイデアを、ともに考える～
	B5	会場のみ	新たな「参加」と「つながり」をコーディネート ～図書館を拠点とした連携の可能性を探る～
	B6	会場のみ	わたしたちは、誰の何をコーディネートするのか？ ～これからの市民・社会・地域活動の「担い手」について考える～
	B7	会場のみ	アジパラがやってくる！関わりたい！パラスポーツの未来 ～続けるために、つなげるために「支援者の知恵と工夫」～
	B8	会場のみ	2回目の「ボランティア国際年」！あなたはどのように取り組む？ ～誰一人取り残さないためのコーディネーションをみんなで考えよう～
13:30～ 15:30	クロージング		明日からのコーディネーションのための振り返りと分かち合い

オープニングセッション (100分)

2月21日(土) 10:40~12:20

ふえきりゅうこう
『不易流行』～ボランティア・市民活動の継承と進化を展望する
～活動のカタチが多様化する時代のコーディネーターの役割とは～

「不易流行」という言葉があります。いつまでも変わらない本質的なもの(不易)と、時代の変化とともに変わっていくもの(流行)の両方を追求し、両者が根元で一つであるとする考え方です。ボランティア・市民活動の世界においては、従来からボランティア活動の特性である「自発性」「社会性」「無償性」を土台にした、自由で創造的なボランティア活動が展開されてきました。人口の高齢化や価値観の多様化が進むにつれて、一定の対価やポイントを得て行われる有償型の活動も生まれます。NPO法が施行された以降は多くの非営利の事業体や各種のソーシャルビジネスなどの動きも広がりました。そして、最近では、ボランティアという言葉をあえて使わない取り組み、遊びやゲームの要素を前面に出した地域やまちおこしのイベントなど、市民のボランティアな活動のあり方やスタイルは一層多様化しています。

このセッションでは、昨今の多様な市民参加の様相を共有しあい、これからのボランティア・市民活動を展望します。さらには、参加のカタチが多様化する時代において、コーディネーターという存在がどのような役割を果たしていけるのかを模索します。

< 登壇者 >



◆織田 元樹(おだ・もとき)さん [特定非営利活動法人ボラみみより情報局 代表理事]

1999年7月に「ボラみみより情報局」をボランティア4名で設立。2000年4月よりボランティア情報誌「ボラみみ」を1万部発行し地域のスーパーや書店など700箇所無料で配布。ボランティア情報サイト「みみライン」の運営。2004年8月から2008年3月まで「なごやボランティア・NPOセンター」の所長。2011年6月～2018年3月まで「愛知県被災者支援センター」の所長。物資寄贈、広報物を制作、イベント・研修、相談など、ボランティアやNPOに関わる事業を展開。



◆伊東 浄江(いとう・きよえ)さん [特定非営利活動法人トルシーダ 代表]

＊トルシーダ(torcida)は応援という意味のポルトガル語
1990年代、日本語ボランティアや学校での日本語指導に関わり、外国人が日本に住むためには言葉だけではない様々な問題があることを知る。2002年NPO法人トルシーダを立ち上げ、外国人集住地区の豊田市保見団地を活動拠点に、学校へ行っていない不就学の子どもたちの居場所づくりとしての教室を始める。近年では、日本語教室の出口支援として高校進学をサポートやキャリア教育にも注力している。



◆草野 竹史(くさの・たけし)さん [NPO法人ezorock代表理事／NPO法人北海道NPOサポートセンター 理事]

1979年札幌生まれ。酪農学園大学経営環境学科卒。北海道内を拠点に、若者とともに環境保全や地域づくり、災害支援などに取り組むNPO法人ezorockを設立。野外ロックフェスでの環境対策活動をきっかけに、若者が持つ「社会を変える力」を引き出しながら、これまで述べ2万人を超える若者と協働する実践的なプロジェクトを展開。現在では多世代・多分野をつなぐ活動を通じて、市民参加型の社会づくりを推進している。

< コーディネーター >



◆野尻 紀恵(のじり・きえ)さん (日本福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授)

神戸市内高校教諭の時に阪神淡路大震災を経験する。震災後、福祉教育を軸として神戸市長田区のまちづくりに参画。生徒と共にボランティアのクラブを立ち上げ、被災地でのボランティア活動を続けた。福祉教育の奥深さにはまり、大学院に進学。社協や大学のボランティアセンターでボランティアコーディネーターの経験がある。2017年から愛知県美浜町にて古民家で学生とともに子ども食堂を開催している。

クロージングセッション (120分)

2月22日(日) 13:30~15:30

明日からのコーディネーションのための振り返りと分かち合い

“ど真ん中”からお届けしたJVCC2026最後のプログラム。全国各地から集まった仲間と新たな学びや気づき、感じたことを話し、分かち合いましょう。また、今後のコーディネーションにつなげていくためにお互いの成果を確認し合います。

A1

ハイブリッド／定員：会場20名 オンライン15名

地域と学生を対等につなぐボランティアコーディネーション ～お互いの気持ちに応えるコーディネーションのために～

地域から学生に参加してほしい、協力して活動できないか、という要望は多数届きますが、コーディネーターとしてボランティアらしい価値を大切にしながら「活動」と「学生」をつなぐためにはどのようなアプローチをするかという悩みは尽きないのではないのでしょうか。

この分科会では、大学側が地域団体とどのような関係性を構築するか、学生をどれくらいサポートして連携団体に送り出すのかを考え、それぞれの大学のベストを探り当てることができたらと思います。

参加対象

- ・大学教職員で学生のボランティアに関わるっている方
- ・今後、関わる予定がある方、関わりたい方
- ・学生を受け入れたい、現在受け入れている地域団体の方

登壇者

事例発表者 岡 秀和さん 関西学院大学 ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室 ボランティア
コーディネーター

藤井 勉さん 愛知学院大学 社会連携センター 助教

いなくみかさん 東海つばめ学習会 豊山教室長

担当

秋田有加里（愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター）／織田元樹（ボラみみより情報局）／
白川陽一（名城大学社会連携センター）／藤井勉

A2

ハイブリッド／定員：会場20名 オンライン15名

災害ボランティアセンターの運営を組織とネットワークの力で支える ～外部からの継続的な支援の実際と備えを先進事例から学ぼう～

災害ボランティアセンターを設置する機会が増加し、平時から協働運営のルールづくりや訓練なども行われています。しかし、自らも被災し困難を抱える地元の人たちだけでセンターを担うには限界があります。社会福祉協議会のブロック派遣などが定着しているものの、長期化やサテライト拠点などの必要性が高まれば、その運営を継続的に支える外部からの人材を確保するしくみを整えなければなりません。能登半島地震等で実践された外部からの継続的な運営支援を振り返り、その活動を可能にした平時からの備えやネットワークの力に学びます。

参加対象

- ・組織的に災害支援に取り組む（取り組みたい）団体・企業の担当者
- ・災害ボランティアセンターの運営に外部からの人材支援を考えている団体・企業の担当者
- ・災害ボランティアセンターの運営を外部から支援したい団体・企業の担当者

登壇者

事例発表者 高木 陽一さん トヨタ自動車株式会社 社会貢献部地域貢献室 主任
平野 伸弥さん 公益社団法人日本青年会議所 愛知ブロック協議会 会長（2025年度）
前田 昌宏さん 日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部
地域コミュニティグループ マネージャー

コメンテーター 高橋 良太さん 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国ボランティア・市民活動振興センター 所長
コーディネーター 阿部 陽一郎さん 社会福祉法人中央共同募金会 参与

担当

鹿住貴之（JUON NETWORK）／後藤麻理子（日本ボランティアコーディネーター協会）／
鈴木盈宏（愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会）／森口留美子（みえ防災市民会議）

A3

会場のみ／定員：30名

災害時こそ試される地域力！～多様な仲間と共に『いのち』をつなぐ～

日本では毎年のように自然災害が発生し、令和6年能登半島地震、令和7年8月の豪雨災害や10月の竜巻被害など、大きな被害が続いています。災害時には、初動対応や避難所運営に加え、高齢者や障がいのある方、外国人など、要支援者への支援が重要な課題となっています。本分科会では、外国人との共生・共助をテーマに、災害時にどのような支援や関わりが求められるのかを一緒に考えます。平時からのつながりづくりや、外国人の方も支援者として活躍できる地域づくりのヒントを学びます。

参加対象

- ・国際交流センター、多文化共生センターの職員
- ・ボランティア団体、被災者支援に関心がある方（外国人を含む）
- ・行政、社会福祉協議会、NPOの職員 等

登壇者

ファシリテーター・コーディネーター 齋藤 雅治さん NPO法人 ボランタリーネイバーズ 研究員

事例発表者 各務 真弓さん NPO法人可児市国際交流協会 事務局長

松崎 瑞美さん 名張市多文化共生センター 職員

神田 すみれさん 多文化アドバイザー、愛知県立大学多文化共生研究所 客員共同 研究員

担当

齋藤雅治／高慶美咲（岐阜県社会福祉協議会）／土岐篤芳（岐阜県社会福祉協議会）

A4

会場のみ／定員：25名

外国人は、支援される側？する側？ みんなでボランティア！

～壁を取り払いともに支えあう社会を目指して～

地域で増加している外国人は支援が必要な人達ばかりでしょうか？もちろん支援が必要な外国人住民もいて支援の手を止めることはしてはいけません。一方で、外国人もさまざまなバックグラウンドを持っていて、得意なことやスキルを持っています。外国人を地域社会に巻き込み、その得意なことやスキルを社会に活かしてもらい多文化共生につなげていきたいと思っています。外国人の本音を聞きながら、ともに支えあうヒントや地域参加しやすい役割や負担の見極めなどを考える機会にしたいと考えています。

参加対象

・自治会、市民活動団体、社会福祉協議会、国際交流協会、大学など地域活動やボランティア活動に関わっている方、外国人との活動に関心がある方

登壇者

事例発表者 徳森 エリカさん 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋、名古屋国際センター 多言語スタッフ
張 悦さん 株式会社張福祉コンサルティング 代表

担当

徳森エリカ／三好清加（大府市社会福祉協議会）／矢野明德（佐賀県国際交流協会）／吉田千鶴（大府市国際交流協会）

A5

会場のみ／定員：25名

団体運営の“担い手不足”問題

～受入側の意識をアップデートする相談対応を考える～

社会状況の急激な変化により、従来、地域活動の担い手として期待されていた人たちの仕事やプライベートに費やす時間が増し、市民活動団体や地縁組織は、団体運営の担い手不足に直面しています。一方で、ボランティア意識を持つ現役世代や事業者、NPOなど、潜在的な担い手は存在していることから、事業内容や役割分担を見直すなど、受入団体側の考え方をアップデートすることが急務です。

本分科会では、担い手不足に関する相談に対しコーディネーターがどう対応するか、参加者みんなで対応方法を考え、市民活動の持続可能性を高めます。

参加対象

・中間支援組織のコーディネーターや行政職員など、活動団体の相談対応にあたる方
・市民活動団体や地縁組織の役員など、組織運営を担う方

登壇者

事例発表者 平岩 亮人さん 特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた拠点運営統括管理責任者

担当

興石亮（長久手市社会福祉協議会）／平岩亮人／三島知斗世（ボランタリーネイバーズ）

A6

会場のみ／定員：25名

地域をつなぐプラットフォームのかけ算・ひき算

～多分野をつなぐ・広がるコーディネーションのヒント集～

地域づくりにおいては、多様な課題に対し、多様な主体が連携・協働するための場や仕組みづくりを目的とした「プラットフォーム」の構築が求められています。国においても地域共生社会の実現に向けて、垣根を超えた重層的な支え合いのプラットフォームの構築を推進し、その中でコーディネーターは重要な役割を果たしています。

この分科会は愛知県内の2つの事例を基に、コーディネーター同士が連携・協働したことでプラットフォームがどうつながり、広がったのか、その効果や成果を整理しながら、参加者と共にそのヒントを考えます。

参加対象

・行政、社会福祉協議会職員
・ボランティア・NPO等の中間支援組織でコーディネート業務に携わっている方
・地域づくりでコーディネート業務に携わっている方（生活支援コーディネーター等）
・分科会のテーマに興味・関心のある方

登壇者

事例報告者 知多市 蜘蛛 衣沙菜さん いぎゅっとババママ学級知多～産前産後ケア～代表
河村 康英さん 知多市社会福祉協議会 事務局次長
江南市 船井 美紀さん 株式会社船井アソシエイツ代表、江南市地域交流センター・江南市SDGs 官民共創
プラットフォームコーディネーター受託者
伊藤 光洋さん 江南市社会福祉協議会 地域福祉活動グループリーダー
コメンテーター 後藤 康文さん 岐阜協立大学教授

担当

伊藤光洋／河村康英／田村亨（花と緑と健康のまちづくりフォーラム）

A7

会場のみ／定員：30名

協同組合と連携した地域のささえあいのこれから ～それぞれの組織の得意技を活かそう～

人口減少や担い手不足、地方自治体の財政難が進む中、地域での支え合いの活動は、行政ばかりに頼れない状況です。一方、全国の生協をはじめとした協同組合で実施される、組合員の助け合い活動は少なくありません。

また、協同組合は福祉、環境、平和などの活動を市民や様々な組織とも連携して行っています。

この分科会では、愛知での3つの協同組合と市の協働事例（生活支援体制整備事業）、北海道での協同組合、企業、NPOの協働事例（自然体験プログラム）を参考に、地域における協同組合との連携やコーディネートについて考えます。

参加対象

・協同組合との連携に関心がある方、協同組合の役員・職員など

登壇者

事例発表者 川津 昭美さん 南医療生活協同組合 非常勤常務理事
松本 小牧さん 愛知県豊明市 市民生活部共生社会課 課長
岸本 敬一さん 北海道生活協同組合連合会 事務局長
大村 凌さん 株式会社FUJI
ファシリテーター 青木 覚さん 一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）連携推進 マネージャー
担当 鹿住貴之（JUON NETWORK）／見山新一（コープあいち）／山崎敬子（安城市社会福祉協議会）

A8

会場のみ／定員：25名

「コーディネーター」×「新聞報道」＝ソーシャルアクション！ ～生活保護行政の堅く高い扉を開かせた“岐阜”の現場から～

社会課題の解決に取り組む団体やその相談を受けるコーディネーターは、解決が長期に渉り、見通しが立たない等の困難を抱えています。しかし、違う分野・立場の人とつながり一歩を踏み出すことで問題を解決することができます。岐阜市で実際に起きた生活保護窓口における不適切な対応をめぐる問題から、新聞報道（特集記事）を通して、どのように行政を動かし、改善していったのかを実例に学びます。

また、グループディスカッションでは、自分の地域で抱えている困りごとや社会課題について話し合い、解決へのヒントや糸口にします。

参加対象

・地域や組織で活動しているコーディネーター
・ソーシャルアクションに関心のある方
・ホームレス問題や生活保護行政に関心を寄せている個人や団体

登壇者

発題者 清水 由子さん 岐阜・野宿生活者支援の会 事務局
事例発表者 山田 俊介さん 岐阜新聞社報道部記者 遊軍担当
坂井 萌香さん 岐阜新聞社報道部記者 写真担当
田川 英信さん 生活保護問題対策全国会議 事務局次長
ファシリテーター 早瀬 昇さん 社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長

担当

清水由子

参加者交流会

食事をつまみながら、夜は楽しい交流タイムを過ごしましょう！
皆さまのご参加をお待ちしております。

- ・オンラインでの交流会は実施いたしません。
- ・参加は任意です。
- ・会場：『味三昧みかど』（大府駅2分） 参加費4,400円



B1

ハイブリッド／定員：会場30名 オンライン20名

“ボランティアさん”から仲間へ ～受入団体とボランティアをつなぐコーディネーションの実践～

受入団体はボランティアに「即戦力」「継続」「後継者」などを期待する一方、参加者の多くは軽い関心や紹介をきっかけに参加しており、双方の思いのズレが意欲低下を招くことがあります。ボランティアの思いを丁寧に受け止め、共に時間を重ねることで自己有用感や愛着を育み、継続的な参加と主体的な関わりにつなげることが重要です。本分科会では、福祉施設や市民活動団体での実践を通して、参加意欲とコミットメントを高める効果的なコーディネーションのあり方を考察します。

参加対象

- ・福祉施設におけるボランティア受入担当者
- ・ボランティア・市民活動団体のスタッフ（特にボランティア受入窓口のスタッフ）
- ・社会福祉協議会、中間支援組織のボランティア・市民活動支援担当者
- ・本テーマに関心のある方

登壇者

事例発表者 伊藤 天音さん 社会福祉法人あさみどりの会 れいんぼうワークス 生活支援員
中村 京子さん CURIOUS（キュリオス）
坂井 香奈さん CURIOUS（キュリオス）
ファシリテーター 野川 祐史さん 名古屋社会福祉協議会 地域福祉推進部ボランティアセンター 副所長

担当

加藤壮一郎(名古屋社会福祉協議会)／奥石亮(長久手市社会福祉協議会)／佐藤匠(至学館大学)／
野川祐史／浜田ゆう(レスキューストックヤード)／三好清加(大府市社会福祉協議会)

B2

ハイブリッド／定員：会場20名 オンライン10名

『共感力』を高めて『受援力』を引き出すコーディネーションとは？ ～災害支援の学びを日常に生かす～

困難な状況にありながら声をあげることができない人がいます。自分が困っていることにすら気づかない人がいます。その人々の声を聞くことができたなら、その人々が思いを伝えることができたなら、必要とする支援につなぐことができるかもしれません。

被災地でのさまざまなコーディネーションの経験を聞きあい、災害時の「困難な状況にある方々への『共感力』を高め『受援力』を引き出す」ことが、日常のコーディネーションに繋がることを、参加者の皆さんと再認識する機会にします。

参加対象

- ・中間支援組織に携わっている方／災害支援の活動をしている方や関心がある方
- ・社会福祉協議会の職員／社会課題解決のためのコーディネーションを担っている方

登壇者

アドバイザー 青山 織衣さん 社会福祉法人大阪ボランティア協会 事務局主幹
事例発表者 森口 留美子さん 特定非営利活動法人みえ防災市民会議
野々山 行成さん 社会福祉法人安城市社会福祉協議会 くらしサポート課 課長
ファシリテーター 新海 洋子さん 特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター 理事

担当

清水由子（岐阜市教育文化振興事業団）／新海洋子／野々山行成／浜田ゆう（レスキューストックヤード）／森口留美子

B3

会場のみ／定員：30名

未来へつなぐ、若者のチカラ ～環境ボランティアの活動からひもとく可能性～

近年、環境問題への関心は高まっているものの、市民活動の現場では「担い手不足」や「メンバーの高齢化」が深刻な課題となっています。特に、次代を担う若者世代の参画をいかに促進し、これまで培われてきた知識や経験を継承していくかが、活動の持続可能性を左右する重要な鍵となります。

この分科会では、「若者がボランティア活動に積極的に参加するために必要なことは何か」「活動を未来につなぐための世代間協力を可能にする仕組みとは」など、若者の社会参加と、その活動を支えるコーディネーションのあり方に焦点を当てて考えます。

参加対象

- ・若者の社会参加に関心のある方
- ・さまざまな立場でボランティア推進を担当している方

登壇者

事例発表者 岸 晃大さん NPO法人藤前干潟を守る会、なごや環境大学環境教育コーディネーター
山本 鍛季さん NPO法人多摩川エコミュージアム、関東EPO
稲場 一華さん 国際自然保護連合(IUCN)日本委員会事務局・ユースコーディネーター
ファシリテーター 鹿住 貴之さん 認定NPO法人JUON NETWORK 理事・事務局長

担当

鹿住貴之／岸晃大／新海洋子（みえNPOネットワークセンター）／野々山行成（安城市社会福祉協議会）

B4

会場のみ／定員：25名

「現役世代&リタイア世代を巻き込みたい！」

～新たな活動者を巻き込む実践事例・アイデアを、ともに考える～

地域共生社会の実現のため、現役世代やリタイア世代の活動者を発掘したいと、ボランティアコーディネーションに関わる担当者は、日々工夫を重ねていますが、思うように活動者が増えていかないのが現状です。

この分科会では、社会参加の現状を振り返るとともに、どうすれば“新たな活動者”を参加につなげることができるのか、実践事例やアイデアなどを出し合いながら、ともに考えます。登壇者やワークショップで情報交換した実践事例から、コーディネーションの“ヒント”を持ち帰っていただき、実践につなげていただければと思います。

参加対象

- ・企業の総務部&人事部など社会貢献活動や、社員ボランティアを担当する部署の方
- ・社会福祉協議会ボランティアセンター、市民活動センターなどの中間支援組織の方
- ・ボランティア活動やボランティアコーディネーター業務に関心のある方

登壇者

事例発表者 米田 正寛さん 刈谷市民ボランティア活動センター 元センター長
山崎 敬子さん 安城市社会福祉協議会 総務課事業係 専門主査
黒田 健さん 河田フェザー株式会社 SDGs推進室 室長
大須賀 恵子さん 特定非営利活動法人中部プロボノセンター 事務局長
ファシリテーター 鈴木 盈宏さん 愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会 委員長

担当

黒田健／小森義史（安城生涯学習まちづくり企画人）／鈴木盈宏／濱口義雄（愛知ネット）／山崎敬子

B5

会場のみ／定員：25名

新たな「参加」と「つながり」をコーディネート

～図書館を拠点とした連携の可能性を探る～

「分断」や「排除」が大きな社会課題となり、フェイク情報が簡単に広がってしまう昨今、広く多様な人たちに地域の状況を正しく伝え、地域活動への参加を促すためにはどうすればよいのでしょうか。

この分科会では、図書館を拠点とする地域づくりを考えます。図書館は、様々な住民が気軽に利用できる社会インフラの一つ。ふらっと訪れた人が、「たまたま地域の活動に出会い、課題に気づき、活動に参加する」そんな仕掛けはできないでしょうか。福祉、多文化共生、防災など様々な分野のボランティアコーディネーターと図書館との連携の可能性を探ります。

参加対象

- ・多様な人たちに活動を広げたいと考えている方
- ・ボランティアの数が減っていると悩んでいる方
- ・図書館が大好きな方 など、どなたでも大歓迎

登壇者

事例発表者・コメンテーター 阿部 治子さん 公益社団法人日本図書館協会 多文化サービス委員会 副委員長
事例発表者 新川 裕美さん 愛知県図書館 資料支援課長
大橋 美紀子さん 名古屋市守山図書館 司書
小倉 明美さん おおぶ文化交流の杜図書館 チーフ

担当

栗木梨衣（日本ボランティアコーディネーター協会）／小森義史（安城生涯学習まちづくり企画人）／矢富明德（佐賀県国際交流協会）

B6

会場のみ／定員：30名

わたしたちは、誰の何をコーディネートするのか？

～これからの市民・社会・地域活動の「担い手」について考える～

近年、様々な場面で「ボランティアの高齢化」や「担い手不足」などが課題となっており、今後の市民活動の持続可能性が懸念されています。前回愛知でJVCCが開催された2013年と比べると日本の総人口は約400万人減少し、高齢化率や共働き世帯の割合が高まっています。一方で、若者を中心に外国人住民が増えています。これらを踏まえて、本分科会では「今後の市民・社会・地域活動の担い手となり得るのは一体誰なのか？」、「市民・社会・地域活動の継続・発展に向けて今取り組むべきことは何か？」などについて参加者のみなさんと一緒に考えます。

参加対象

- ・ボランティアの養成やコーディネートに関わっている方
- ・ボランティアを受け入れている団体の方
- ・市民・社会・地域活動に参画している方

登壇者

ファシリテーター 土井 佳彦さん NPO法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事
稲葉 久之さん フリーランス・ファシリテーター
白川 陽一さん 名城大学 社会連携センター 社会連携アドバイザー
齋藤 雅治さん NPO法人ボランタリーネイバーズ 研究員

担当

稲葉久之／齋藤雅治／白川陽一／土井佳彦

アジパラがやってくる！関わりたい！パラスポーツの未来

～続けるために、つなげるために「支援者の知恵と工夫」～

2026年アジアパラ競技大会が愛知県の各所でおこなわれます。この機会にパラ競技の状況を紐解いてみますと、コロナ禍前まで存在していた様々なパラ競技者がコロナ禍中に活動できなくなり、そのまま団体がなくなってしまった事例もあります。パラ競技参加者やその家族にとっては、競技に参加することが生きがいになったり、夢をみつけるすべとなったりもします。そして、その活動を支える人達も不可欠です。

それぞれの競技者、また支援者がどのようにパラスポーツ団体を支え、運営しているかをみなで共有し、今後も継続的に続けていけるような糸口を探せる分科会とします。また、今分科会に参加することで、パラ競技関係者でつながりを作り、今後連携できる仲間となる機会とします。

参加対象

- ・パラ競技をおこなっている方
- ・パラ競技のサポートをしている方（監督、ボランティア、アスリートの家族等）
- ・パラ競技に興味のある方
- ・スポーツが好きで知りたいと思われる方、すべてのみなさん

登壇者

事例発表者 浅野 琢哉さん 一般社団法人愛知県電動車椅子サッカー協会 代表
ゲスト パラスポーツ競技者

担当

秋田有加里（愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター）／河村康英（知多市社会福祉協議会）

2回目の「ボランティア国際年」！ あなたはどう取り組む？

～誰一人取り残さないためのコーディネーションをみんなで考えよう～

2026年は国連総会が宣言した「持続可能な開発のためのボランティア国際年」です。前回（2001年）のボランティア国際年から25年。ボランティアに参加する人や活動の広がり、多様な分野の連携や協働はどれだけ進んだのでしょうか？今回は特にSDGsの達成においてボランティアが果たす役割の重要性が指摘されています。誰一人取り残さないためのボランティア活動の強化に向けて、ボランティアコーディネーション力をどのように発揮していけばいいのか、魅力的な実践の共有やこれからの取り組みのアイデアについて語り合ひましょう。

参加対象

テーマに関心のある方

登壇者

進行 筒井 のり子さん 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 理事
話題提供 國實 紗登美さん 龍谷大学 ボランティア・NPO活動センター ボランティアコーディネーター
藤井 美香さん 公益財団法人横浜市国際交流協会 多文化共生推進課 担当課長

担当

國實紗登美／筒井のり子／藤井美香

実行委員

秋田有加里（愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター）／飯尾成生（愛知県社会福祉協議会）／伊藤光洋（江南市社会福祉協議会）／稲葉久之（フリーランス・ファシリテーター）／織田元樹（特定非営利活動法人ボラみみより情報局）／鹿住貴之（認定特定非営利活動法人JUON NETWORK）／加藤壮一郎（名古屋社会福祉協議会）／唐木理恵子（紬ワークス）／河村 康英（知多市社会福祉協議会）／岸晃大（特定非営利活動法人藤前干潟を守る会）／栗木梨衣（認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会）／黒田健（河田フェザー株式会社）／高慶美咲（岐阜県社会福祉協議会）／興石亮（長久手市社会福祉協議会）／小森義史（安城生涯学習まちづくり企画人）／齋藤雅治（特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ）／佐藤匠（至学館大学）／清水由子（公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団）／白川 陽一（名城大学社会連携センター）／新海洋子（特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター、一般社団法人SDGsコミュニティ）／鈴木盈宏（愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会）／田村亨（特定非営利活動法人花と緑と健康のまちづくりフォーラム）／土井佳彦（特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海）／徳森エリカ（多文化防災ネットワーク愛知・名古屋〈TABOネット〉）／土岐篤芳（岐阜県社会福祉協議会）／野川祐史（名古屋社会福祉協議会）／野尻紀恵（日本福祉大学）／野々山行成（安城市社会福祉協議会）／濱口義雄（特定非営利活動法人愛知ネット）／浜田ゆう（認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード）／平岩亮人（特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた）／藤井勉（愛知学院大学）／三島知斗世（特定非営利活動法人ボランティアネイバーズ）／見山新一（生活協同組合コープあいち）／三好清加（大府市社会福祉協議会）／森口留美子（特定非営利活動法人みえ防災市民会議）／矢富明德（佐賀県国際交流協会）／山方元（愛知県立豊橋南高等学校）／山崎敬子（安城市社会福祉協議会）／吉田千鶴（大府市国際交流協会）／岡秀和（関西学院大学ボランティア活動支援センターヒューマン・サービス支援室、研究集会担当理事）／後藤麻理子（認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会）／島山拓也（認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会）

後援

社会福祉法人全国社会福祉協議会 / 社会福祉法人中央共同募金会 / 認定特定非営利活動法人日本NPOセンター
一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR) / 一般社団法人多文化社会専門職機構 (TaSSK)
特定非営利活動法人国際協力NGOセンター / 認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会
特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会 / 日本生活協同組合連合会 / 一般財団法人児童健全育成推進財団
ESD活動支援センター / 中部地方ESD活動支援センター / 一般社団法人環境パートナーシップ会議
認定特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOD)
大府市 / 社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 / 社会福祉法人岐阜県社会福祉協議会
社会福祉法人三重県社会福祉協議会 / 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会 / 社会福祉法人大府市社会福祉協議会
公益財団法人愛知県国際交流協会 / 公益財団法人岐阜県国際交流センター
公益財団法人名古屋国際センター / 大府市国際交流協会



認定特定非営利活動法人

JVCA

日本ボランティアコーディネーター協会

Japan Volunteer COORDINATORS Association

参加の力を信じよう！～市民が主役の豊かで創造的な社会をつくる

市民が主体的に問題解決に取り組む社会を実現するために、一人ひとりの社会参加意識を高め、積極的に行動することを応援する専門スタッフとして「ボランティアコーディネーター」の存在はきわめて重要です。しかし、十分に社会的認知を得ていないことから、多様な分野で活動するボランティアコーディネーターの専門性の向上と社会的認知を進め、専門職としての確立を図ることを目的に、2001年1月に設立し、同年8月にNPO法人化をいたしました。

JVCAの事業・活動の5つの柱

1. ボランティアの魅力と可能性を伝える
2. ボランティアコーディネーションの機能を普及させる
3. ボランティアコーディネーターのネットワークの確立
4. ボランティアコーディネーターの専門性の向上
5. ボランティアコーディネーターの社会的認知の促進

1 情報の収集と提供活動

- ① ニュースレターの発行
- ② メールマガジンの発信
- ③ ブックレット・書籍の発行
- ④ WEBサイトの運営
- ⑤ facebook・Instagramの運営
- ⑥ 文献・データの 情報収集

2 全国研究集会の開催

- ① ボランティアコーディネーターたちが一堂に会する<市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 (JVCC) の開催
- ② 上記開催のための実行委員会の組織化

3 検定システムの実施

- ① ボランティアコーディネーション力
1・2・3級検定試験・直前研修の実施
- ② 3級検定の共催
- ③ 1・2級合格者のつどい
- ④ 1・2級合格者対象事例研究会

4 研修・セミナーの開催

- ① ボランティアコーディネーター
初任者向け研修の開催
- ② ボランティアコーディネーター
実務者向け基礎・応用研修の開催
- ③ 研修講師の派遣
- ④ 団体向けパッケージ研修の提供

5 調査・研究活動

- ① JVCA会員・検定合格者のニーズ調査の実施
- ② グッドプラクティス事例の収集、および
認定、可視化
- ③ ボランティアコーディネーションに関する
ニーズ把握のためのヒアリング調査の
実施

6 ネットワークの推進

- ① 会員メーリングリストの運営
- ② CoCoサロンの開催支援
- ③ ボランティアコーディネーター基本指針
の配布・普及
- ④ 国内外の関係団体との連携、協働
- ⑤ 1・2級合格者対象研究会

事務局 認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-13 末よしビル別館 30D

TEL : 03 - 5225 - 1545 FAX : 03 - 5225 - 1563

E-mail: jvca@jvca2001.org URL: <https://www.jvca2001.org/>